

# I. 調査レポート (干潟調査)

## 干潟調査レポート①

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月26日、7月9日

### [I] 調査概要

#### 1. 調査者

大田区環境マイスターの会（計6名）および調査協力者（計7名）

#### 2. 調査場所

多摩川河口大田区側干潟

#### 3. 調査目的

2017年より実施してきた同生息実態の調査を継続し、生態系の変化を確認すると共に、多摩川河口の干潟の環境保全に役立てる。

#### 4. 調査内容

- ① 底層の生物調査
- ② 上記調査地点周辺の生物調査
- ③ 周辺の鳥類調査
- ④ 調査地点の底層調査

#### 5. 調査対象生物

・貝類および節足動物類および鳥類

### [II] 生物調査方法

#### 1. 調査地点

2017年の調査開始以降多摩川の0kmポイント（B）を中心に、海側約800m（A）と上流約1km（C）を基本サンプル採取地点として調査を実施。今回はA地点の一部で水没のため調査を中止し、補助地点を作り実施した。

[図-1] 調査地点の地図



[表-1] サンプル採取地点の内容

サンプル採取地点		内容		
A	1	河口先端域	陸側	水没のため採取中止
	2		中間部	基本採取地点
	23		中間部	A1 周辺が水没のための A2～A3 間で補助的に採 取を実施した地点
	3		川側	基本採取地点
B	1	多摩川 0km ポイント	陸側	基本採取地点
	2		川側	基本採取地点
C	1	0km ポイントから上流側に約 1km	陸側	基本採取地点
	2	離れた海老取り川との合流地点	川側*	基本採取地点

## 2. 底層生物のサンプル採取方法

各採取地点の干潟で 25cm 四方、深さ 10cm の土壌を採取。約 1mm メッシュの袋にこの土壌を入れ、流水にて土砂を洗浄除去し、残渣中にある生物を確認した。

また、土壌採取後湧き出た水の水温を測定するとともに、採取ビンに入れ、後日 pH および塩分濃度を測定した。

## 3. 計測機器

1) pH/塩分濃度：FieldNew 社製 FN002A（昨年までは外部に測定を依頼していたが、今年度から新たに購入して当会で測定することにした）

3) 位置：Garmin（ガーミン）登山用 GPS

4) 温度：横河電気製温度計 Model2455/石原温度計製作所製 No.7 赤液棒状温度計

### [Ⅲ] 底層の生物調査結果

#### 1. 調査実施時期

[表-2] 調査地点と実施時期

調査地点	調査実施日	
	調査日・時間	干潮時間 (潮位)
A	6月26日(木) AM10:30~12:00	AM11:32 -1cm
B	7月9日(水) AM9:30~11:30	AM10:04 32cm
C		

#### 2. 調査地点の位置

[表-3] 調査地点の測位

地点	サンプル 採取地点	GPS	
		北緯	東経
A	1	N35° 32.213'	E139° 46.713'
	2	N35° 32.207'	E139° 46.703'
	3	N35° 32.201'	E139° 46.688'
B	1	N35° 32.410'	E139° 46.272'
	2	N35° 32.401'	E139° 46.261'
C	1	N35° 32.740'	E139° 45.237'
	2	N35° 37.730'	E139° 45.237'

#### 3. 調査地点の水質

[表-4] 調査地点の水質

		PH 測定値	塩分濃度%	水温 °C
A	河川水	6.26	1.45	25
	A-2	7.10	2.07	25
	A-23	7.06	2.00	25
	A-3	7.05	2.01	25
B	河川水	7.86	1.14	25
	B-1	7.12	1.37	25
	B-2	7.14	1.52	25
C	河川水	7.92	0.84	25
	C-1	7.14	1.80	25
	C-2	7.95	0.84	25

4. 確認生物 生物の写真は[別紙1 生物の写真]参照

4-1) 底層生物のサンプル採取で確認した貝の種類別個体数

① アサリ (単位: mm)

[表-5] アサリの大きさ別個体数

大きさ	A1	A2	A23	A3	B1	B2	C1	C2	計
0~5	—	2	8	1	0	0	1	—	12
6~10	—	1	2	4	1	1	1	—	10
10mm 以上	—	0	1	2	1	0	0	—	4
計	—	3	11	7	2	1	2	0	26

(補足) C1 地点で 0~5mm および 6~10mm の個体が各 1 個発見できた。

② ヤマトシジミ (単位: mm)

【表-6】 ヤマトシジミの大きさ別個体数

大きさ	A1	A2	A23	A3	B1	B2	C1	C2	計
0~5	—	0	0	0	2	0	0	0	2
6~10	—	0	1	0	3	0	0	0	4
10mm 以上	—	0	0	0	1	0	0	0	1
計	—	0	1	0	6	0	0	0	7

4-2) 採取底層中のその他の生物と周辺生物

[表-8] 底層生物のサンプル採取で確認したその他生物と周辺生物

	生物
A~C 地点	シオフキ(4) マテガイ(15) ソトオリガイ(1) アナジャコ(1) ムロミスナウミナナフシ(32) ヨコエビ類(1) スナモグリ類(1) ヒモムシ類(1) イトゴカイ類(2) ヤマトカワゴカイ(1) ゴカイ類(15) ビリンゴ ヤマトオサガニ コメツキガニ アラムシロ ミミズハゼ マハゼ カキ フジツボ

( ) は個体数

## 【IV】 底層調査

目的：2019年の台風19号により底質が泥質化したため、底層（約20cm）の底質調査および地盤高調査を継続的に実施し、底質がどのように変化しているかを確認する。

### 1. 底層調査

- 調査方法：表層から約20cm下まで管を挿入して写真のように底層をサンプリングして底質の状況を確認する。

【管の中の底層サンプル】

- 結果：2021年以降砂質化が進んできたが、今回も概ね砂質であった。



【表-9】 2025年の底質調査結果

調査地点	A			B		C	
	1	2	3	1	2	1	2
底質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質*

\*：若干泥質が混じっていた。

### 2. A地点の地盤高調査 詳細はA地点の地盤高調査報告書参照

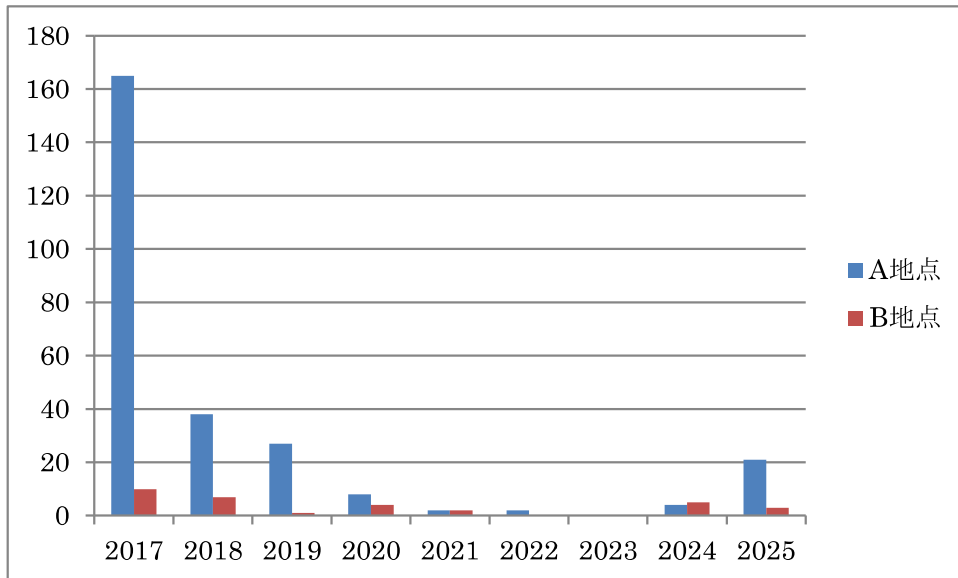
- 調査方法：別紙参照
- 結果概要：

調査年	川底の状況
2020	台風19号で運ばれてきた大量の土砂によって大幅に上昇
2021～2022	削られる動きで下がる
2023～2024	上昇する傾向に変化
2025	下降した

## [VI] まとめ

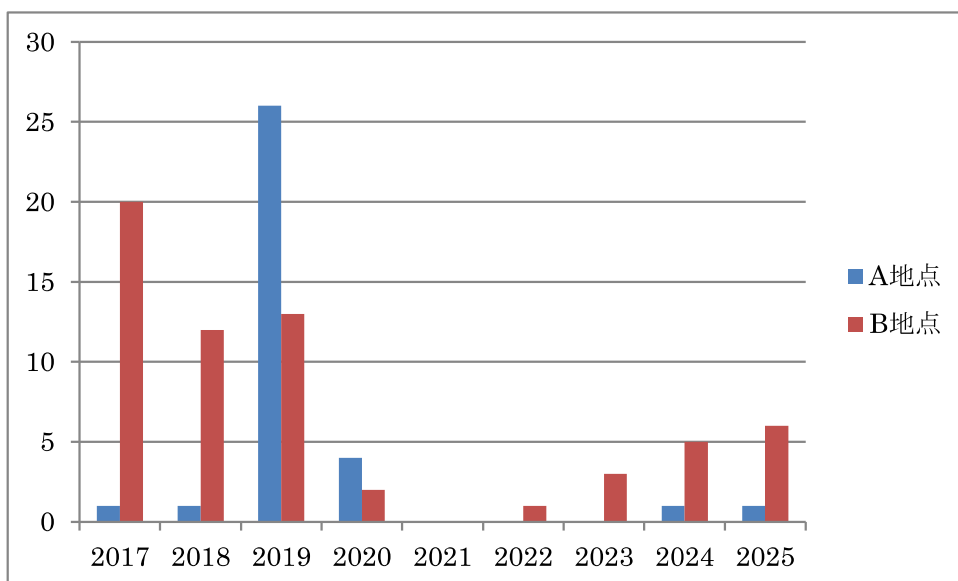
1. アサリは調査を開始した 2017 年をピークに大幅な減少傾向にあったが、昨年よりわずかに増加傾向に転じた。今年は 6 年前の 2019 年個体数まで増加し、増加傾向が継続している。しかし、調査ポイント A1 が採取できず、補助的に採取した A23 ポイントで多く採取でき、これが総個体数を押し上げているため、増加傾向と結論付けるには来年の結果を待つ必要があるだろう。

【図-1】アサリの年別採取個体数



2. ヤマトシジミは 2019 年以降、汽水域である B 地点でのヤマトシジミの数が減っていたが、あさり同様昨年わずかではあるが増加し、今年も同傾向が認められた。

【図-2】ヤマトシジミの年別採取個体数



2. このほかの貝類

シオフキ、マテガイ、ソトオリガイ、カキやフジツボなどの貝類が発見された。

4. カニ類

A/B 地点で昨年同様ヤマトオサガニやコメツキガニなどのカニ類が確認できた。個体数も2019年以前に比べより少なくなっているが、順調に個体数は増えていた。

5. その他

2019年に大規模な護岸工事が行われたC地点は2020年以降ほとんど生物は確認できていなかったが、今回はアサリやゴカイ、ビリンゴが確認でき、復活しているように見られる。

以上

追記) 外部からご参加され、ご協力いただいた下記の方々に感謝を申し上げます。

海辺つくり研究会：古川様

アルプスアルパイン株式会社：番長様 村上様 中村様

川崎大師干潟館：佐川様 中澤様

海洋教育をご専門にされている浪崎様

別紙1 主な確認生物の写真1

		
<p>ハマグリ</p>	<p>アサリ</p>	<p>オキシジミ</p>
		
<p>アラムシロ</p>	<p>アサリ、シオフキ</p>	<p>ソトオリガイ</p>
		
<p>マガキ</p>	<p>アカニシガイ</p>	<p>アサリ</p>
		
<p>マテガイ</p>	<p>フナムシ類</p>	<p>フナムシ類</p>
		
<p>ハゼ類</p>	<p>ハゼ類</p>	<p>アミ類</p>

主な確認生物の写真2

		
ヤマトオサガニ	ムロミスナウミナナフシ	ニホンスナモグリ
		
ボラ	ミズクラゲ	ウミネコ
		
ウミネコ	コアマモ	コアマモ

## 2025 年 A エリアの地盤高測定報告

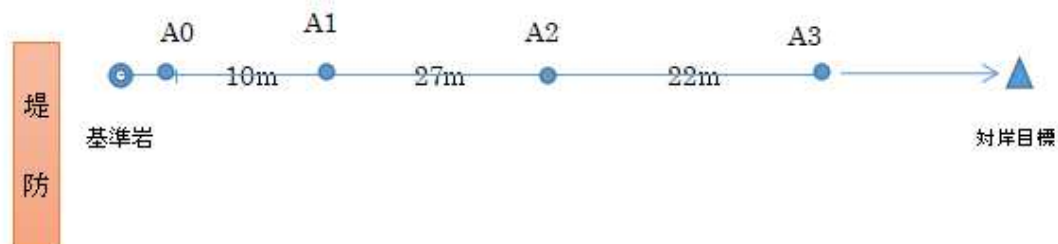
## 1, 測点の配置の変遷

A エリアで始めた地盤高測定の測点については工事の影響や管理のしやすさを狙って少しずつ変更してきた。しかし測線方向は、同じ場所が変わらないようにしてきたので過去のデータと併せて比較し変化を見ることについては、問題ないと考えている。

## a) 2020 年測量地点配置図

2020 年の調査では、2019 年に使った基準点を利用して同じ観測点を再現しやすくするために各点に木杭を打ち込み明確にした。

過去設置した観測点は、長さ等ばらばらであったが対岸目標と基準岩を結ぶ線上に再設定した。

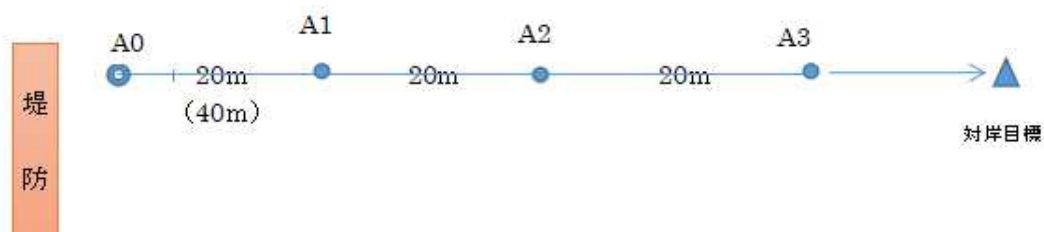


## b) 2021 年測量地点配置図

観測点の配置を整理し今後の測量をしやすい様に各観測点の位置を変更した。

各点には 3 cm 角で長さ 1m の木杭を埋設した。

これにより今後使い続けていける点が出来たと考えていた。



c) 2022 年測量地点配置図

2022 年は、高潮堤防工事が行われ旧堤防や基礎石がすべて撤去され高潮堤防が新設された為、川岸の地盤が広範囲に掘られ埋設していた基準杭 A0 や当初使っていた基準岩も消失した。

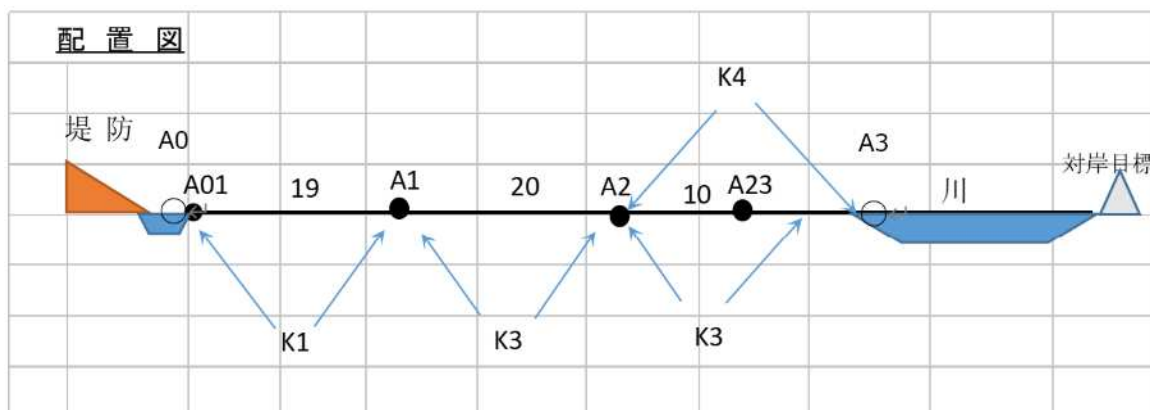
A0 の位置を再測して再現したかったが工事に伴って堤防下が水路状になっており再現できず 1m 離れたところに新たに A01 として木杭を埋設した。

他の観測点は、A2 のみ確認されそれを使って対岸目標との見通し線上に A1、A23 を設定した。尚 A3 については、川の中になってしまいぬかるんでいることもあり再現をあきらめて前 10m の所に A23 を設定し木杭を埋設した。

A1 の周辺は、干潮時も水たまりが残り足場も不安であるが 2020,2021 と比べるとだんだん良くなっていく方向で観測作業に影響ない状態まで改善されている。

A2 周辺は、砂が安定していて締まった状態である。

A3 周辺は、少し下がったのか水没していてぬかるみアクセス出来なかった。



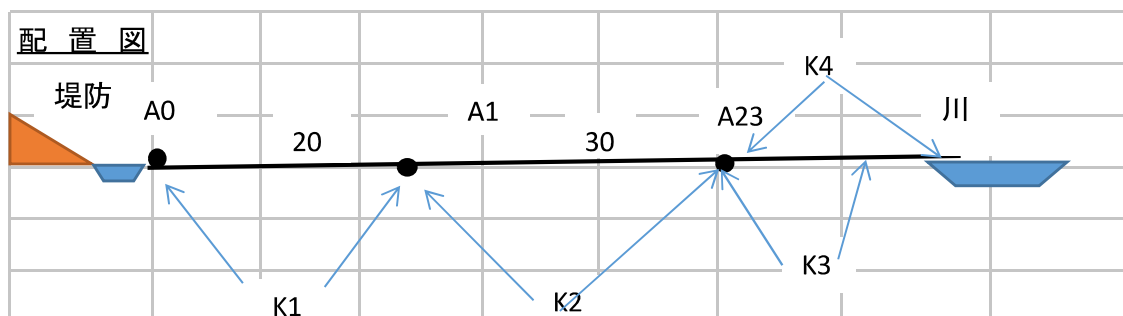
※K1～K4 は、観測を想定した時の機械点の位置

d) 2023 年測量地点配置図

高潮堤防の工事がほぼ終わり昨年と少し環境が変わった。水路に沈んでいた A0 に杭が打てる状況であったので対岸目標と A1 を使い 20m の距離の所に A0 として 30Φ×1000 木杭を打ち込んだ。

A1 及び A23 は、昨年使った杭が残っておりそれを使った。

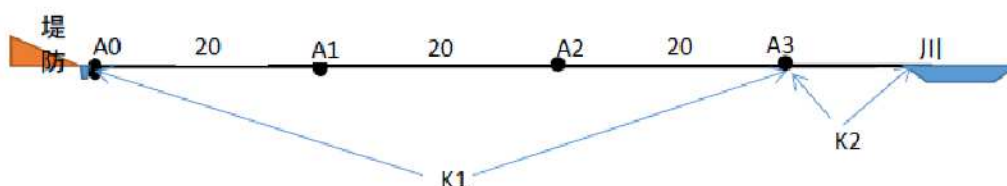
A23 から先のエリアは、大変ぬかるんでおり A3 まで行けず確認できない状況である。



e) 2024年測量地点配置図

基準点については、残っていたA1を除きA0～A3まで3点再現して木杭を埋設した。これにより2021年の配置に沿って測点が再現出来て測定データが取れた。測定は、レベルをK1に据えてA0～A3まで観測しK2に移動しA3から川面まで観測した。

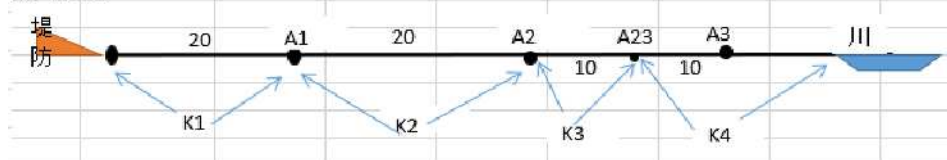
配置図



f) 2025年測量地点配置図

既存の木杭は、A0、A1、A2、A3が見つかった。新たには、測量時川沿いのA3が水没してしまう可能性があつて念のために補助点A23に木杭を打ち込んだ。測定は、機械点K1～K4で4回に分けて各分担の範囲を測定し合併して地盤高を得た。

配置図



g) 現場写真



①高潮堤防礎石部分



②A0 地点木杭



③A エリア全景



④測量風景

2、観測データー

A) 2025 年結果と断面グラフ

過去埋設した昨年と同様に A1 の木杭が残っていたので A1 を昨年データー35 として各点の値を変換した。その他に既知点 A0、A2 が残っており昨年データーとの比較から問題はないと考えられる。

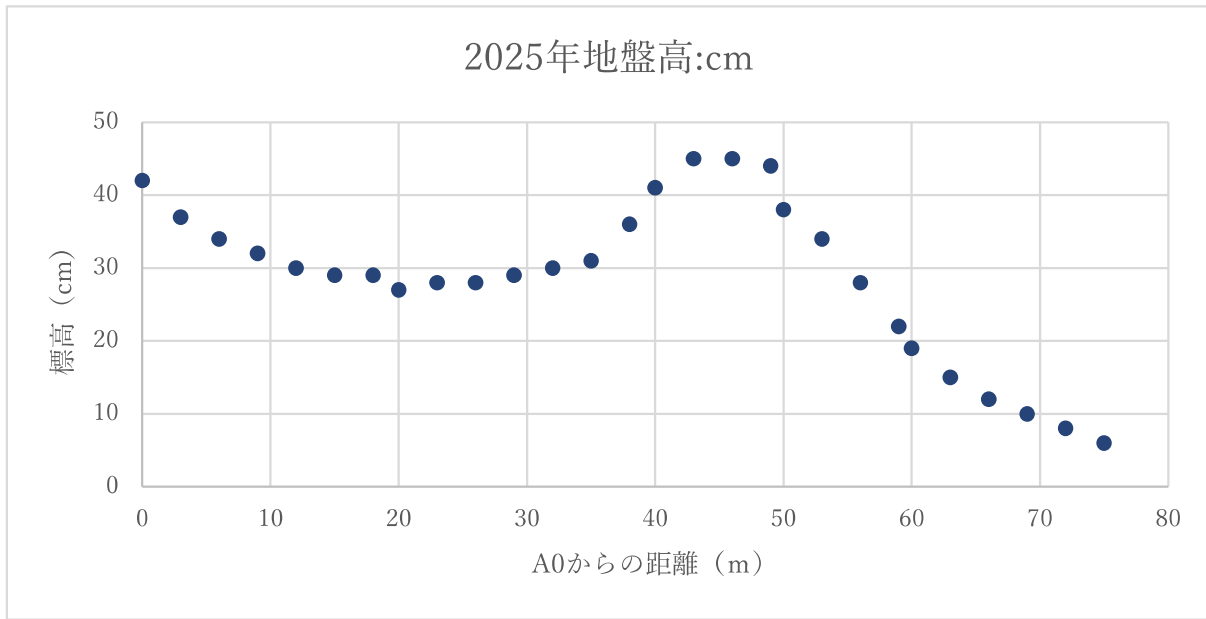
また潮時表から見ると当日の干潮時 11:53 の水面高は、-10 cmであった。

① 2024 年観測結果（水準手簿）

				水 準 手 簿			2025年6月26日			
				開始時間：		11:00	11:30			
		天 気：	はれ	観測者：		古 川		標尺係：鈴木		
		気 温：	28°C			記録係：中 村				
測点名	A0からの距離	点間距離	K1	K2	K3	K4	読み取り値合併	地盤高	備考	
1	観測点A0	0	0	117			117	52	前回値：52	
2	A0下			127			127	42		
3	a1	3	3	132			132	37		
4	a2	6	3	135			135	34		
5	a3	9	3	137			137	32		
6	a4	12	3	139			139	30		
7	a5	15	3	140			140	29		
8	a6	18	3	140			140	29		
9	観測点A1	20	2	134	132		134	35	前回値：35	
10	A1下		0		140		142	27		
11	a7	23	3		139		141	28		
12	a8	26	3		139		141	28		
13	a9	29	3		138		140	29		
14	a10	32	3		137		139	30		
15	a11	35	3		136		138	31		
16	a12	38	3		131		133	36		
17	観測点A2	40	2		120	139	122	47	前回値：46	
18	A2下					145	128	41		
19	a13	43	3			141	124	45		
20	a14	46	3			141	124	45		
21	a15	49	3			142	125	44		
22	観測点A23	50	1			144	130	127	42	再現点
23	A23下	50					134	131	38	
24	a16	53	3				138	135	34	
25	a17	56	3				144	141	28	
26	a18	59	3				150	147	22	
27	観測点A3	60	1				147	144	25	再現点
28	A3下						153	150	19	
29	a19	63	3				157	154	15	
30	a20	66	3				160	157	12	
31	a21	69	3				162	159	10	
32	a22	72	3				164	161	8	
33	a23	75	3				166	163	6	
34	川						169	166	3	水面

干潮 11:53 -10 c m

② 2024年観測データグラフ



B) 過去5年の結果と断面比較グラフ

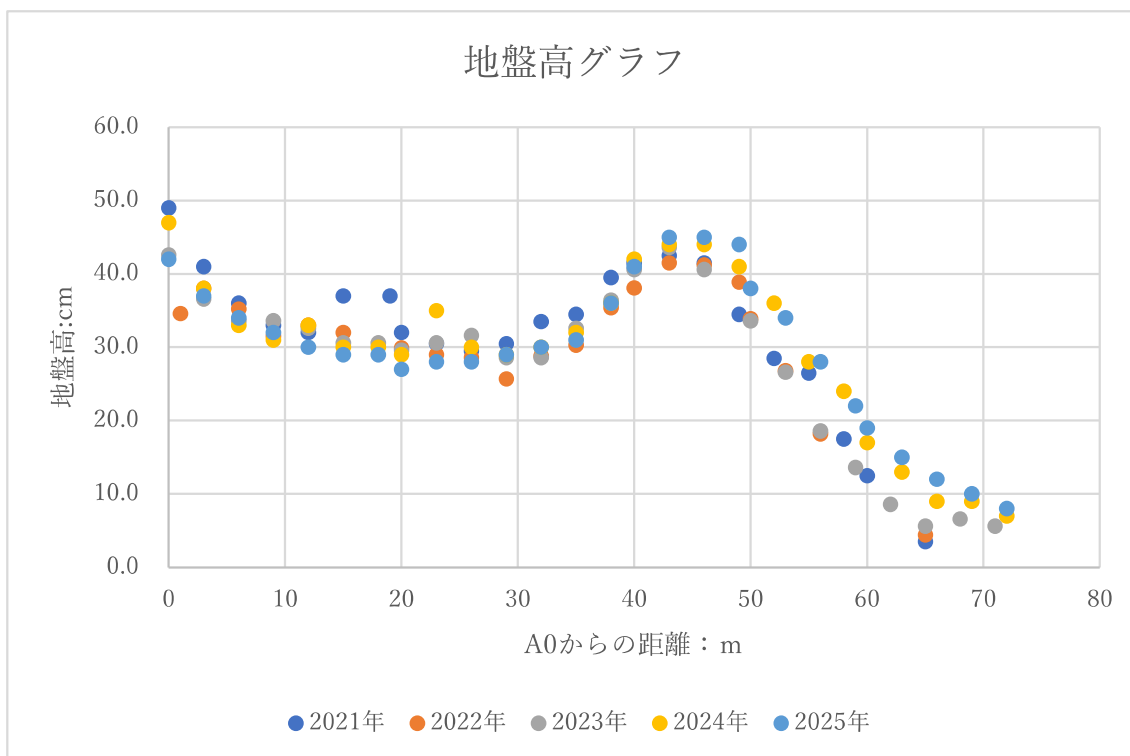
① 各年の地盤高と断面積計算

測定できていない点のデータは、前後の点から平均計算から求め赤字で記載し、比較しやすい0-55mまでの値を使って面積を計算した。

A0からの距離.m	2021年		2022年		2023年		2024年		2025年	
	地盤高.m	台形面積.m <sup>2</sup>	地盤高.m	台形面積.m <sup>2</sup>	地盤高.m	台形面積.m <sup>2</sup>	地盤高.m	台形面積.m <sup>2</sup>	地盤高.m	台形面積.m <sup>2</sup>
0	0.48500		0.47200		0.45600		0.47000		0.42000	
1			0.34600	0.40900						
3	0.41000	1.34250	0.38000	0.72600	0.36600	1.23300	0.38000	1.27500	0.37000	1.18500
6	0.36000	1.15500	0.35200	1.09800	0.33600	1.05300	0.33000	1.06500	0.34000	1.06500
9	0.33000	1.03500	0.31500	1.00050	0.33600	1.00800	0.31000	0.96000	0.32000	0.99000
12	0.32000	0.97500	0.33000	0.96750	0.32600	0.99300	0.33000	0.96000	0.30000	0.93000
15	0.37000	1.03500	0.32000	0.97500	0.30600	0.94800	0.30000	0.94500	0.29000	0.88500
18					0.32600	0.94800	0.30000	0.90000	0.29000	0.87000
19	0.37000	1.48000								
20	0.32000	0.34500	0.29900	1.54750	0.34600	0.67200	0.29000	0.59000	0.27000	0.56000
23	0.30500	0.93750	0.29000	0.88350	0.30600	0.97800	0.35000	0.96000	0.28000	0.82500
26	0.29500	0.90000	0.28600	0.86400	0.31600	0.93300	0.30000	0.97500	0.28000	0.84000
29	0.30500	0.90000	0.25700	0.81450	0.28600	0.90300	0.29000	0.88500	0.29000	0.85500
32	0.33500	0.96000	0.28800	0.81750	0.28600	0.85800	0.30000	0.88500	0.30000	0.88500
35	0.34500	1.02000	0.30300	0.88650	0.32600	0.91800	0.32000	0.93000	0.31000	0.91500
38	0.39500	1.11000	0.35400	0.98550	0.36400	1.03500	0.36000	1.02000	0.36000	1.00500
40	0.41500	0.81000	0.38100	0.73500	0.40600	0.77000	0.42000	0.78000	0.41000	0.77000
43	0.42500	1.26000	0.41500	1.19400	0.43600	1.26300	0.44000	1.29000	0.45000	1.29000
46	0.41500	1.26000	0.41200	1.24050	0.40600	1.26300	0.44000	1.32000	0.45000	1.35000
49	0.34500	1.14000	0.38900	1.20150			0.41000	1.27500	0.44000	1.33500
50			0.33900	0.36400	0.33600	1.48400			0.38000	0.41000
52	0.28500	0.94500					0.36000	1.15500		
53			0.26800	0.91050	0.26600	0.90300			0.34000	1.08000
55	0.26500	0.82500	0.21060	0.47860	0.21267	0.47867	0.28000	0.96000	0.30000	0.64000
合計		19.43500		18.09910		18.64167		19.13000		18.68500

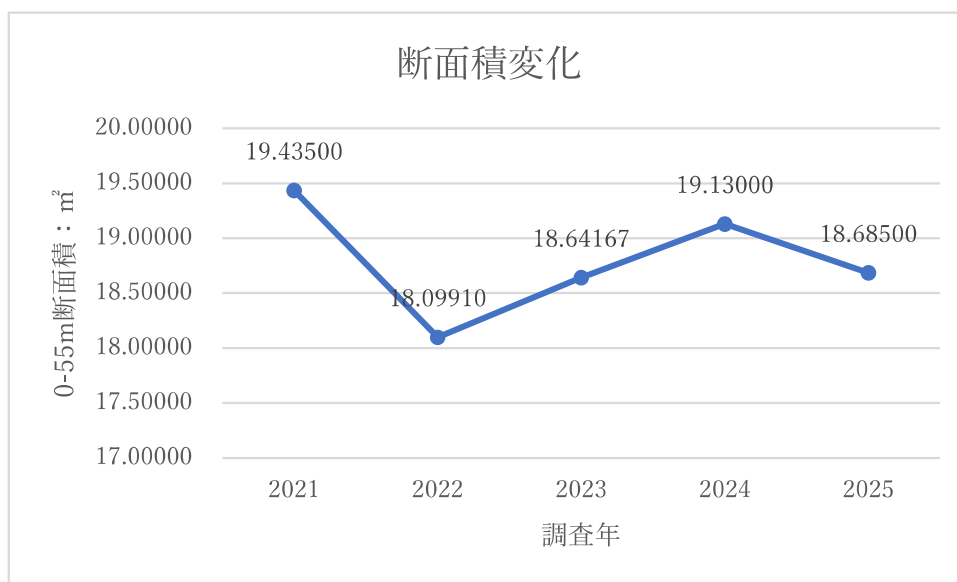
② 各年のデータプロットグラフ

各年の取得データをすべてプロットし比較した



③ 断面積変位グラフ

各年度の断面積計算は、前表にある台形面積の総和で求められる。



### 3, 考察

2019年の台風で大量の土砂が運ばれてきて川底は、大幅に上昇したとみられる。

上昇した川底が削られる動きが2022年まで続き、反転して2023年以降上昇に転じてきて今年は少し下がったようだ。

相変わらず上流では、葦原の掘削工事が行われて何らかの影響は、出ているだろうが原因はわからない

### 4, 最後に

2019年の台風19号によりガラッと変わってしまった状況をきっかけに始まった水準測量も今年で5年目になる。これにより川底の変化も毎年それなりにあることがわかり今後も続けることでさらに見えることも出てくるかもしれない。

今年も、重い機材を持ち込んで暑い中、観測に協力をいただいている古川先生に大変感謝いたします。

以上

干潟調査のレポート②

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
浦安市三番瀬環境観察館	浦安市日の出地先	7/9, 7/10, 7/21, 8/3, 8/17, 8/22, 8/24, 9/6

東京湾カニ一斉調査の結果

**調査情報**

団体名	浦安市三番瀬環境観察館	
調査地点名	浦安市日の出地先	
位置座標 (可能であれば) <small>※スマートフォン・タブレット端末等の地図アプリで取得してください。</small>	緯度	N 35° 38' 36.2"
	経度	E 139° 56' 12.3"
実施年月日	7/9, 7/10, 7/21, 8/3, 8/17, 8/22, 8/24, 9/6	
参加人数(人)	161名	

**調査結果**

種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ	20	
ケフサイソガニ		
タカノケフサイソガニ	150	干潟、転石帯、護岸の隙間
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ		
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
イシガニ	15	干潟、転石帯、護岸の隙間
コメツキガニ		
チゴガニ		
オサガニ		
ヤマトオサガニ		
イッカククモガニ	5	流れ藻
ヒメベンケイガニ	20	カキ殻の隙間、転石下
タイワンガザミ	20	干潟、転石下
ガザミ	10	干潟、転石下
ヒライソガニ	20	転石下
ケアシヒライソガニ(仮称)	5	転石下
イソガニ	50	転石下

**備考**

浦安市三番瀬環境観察館の海洋生物調査および校外学習で観察されたカニ類の結果をまとめた。調査方法は目視およびタモ網を使ってカニ類を採集した。
---

干潟調査の結果

団体名	浦安市三番瀬環境観察館	
調査地点名	浦安市日の出地先	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N 35° 38' 36.2"
	経度	E 139° 56' 12.3"
実施年月日	7/9、7/10、7/21、8/3、8/17、8/22、8/24、9/6	
参加人数 (人)	161 名	

発見した生物の種名※	特記事項など
ミズクラゲ	
アカクラゲ	
タテジマイソギンチャク	
花クラゲ目	カイウミヒドラ類
ヒメケハダヒザラガイ	
ホソウミニナ	観察館生物調査の干潟区域では初確認
アラレタマキビ	
タマキビ	
ツメタガイ	
ムシロガイ	観察館生物調査で初記録
アラムシロ	
レイシ	
イボニシ	
マガキ	
マテガイ	
シズクガイ	
バカガイ	
シオフキ	
ホンビノスガイ	
ウスカラシオツガイ	
アサリ	
コウイカ属	稚イカで同定が難しいため、属止め

ジンドウイカ	
チロリ	
ヒガタチロリ	
アシナガゴカイ	
イワムシ種群	
コアシギボシイソメ	
アミメオニスピオ	
ミズヒキゴカイ種群	
タマシキゴカイ	糞塊が激減
ツツオオフエリア	
ナギサコケムシ	
カイヤドリウミグモ	
イワフジツボ	
シロスジフジツボ	
タテジマフジツボ	
ニホンドロソコエビ	
アリアケドロクダムシ	
モズミヨコエビ	
シリケンウミセミ	
キタフナムシ	
フナムシ種群	
ミツオビクーマ	
アキアミ	
ウリタエビジャコ	
シラタエビ	
ユビナガスジエビ	
スジエビモドキ	
コブヨコバサミ	
テナガツノヤドカリ	
ユビナガホンヤドカリ	
クシノハクモヒトデ	
アカエイ	
カタクチイワシ	
ヨウジウオ	
ボラ	
トウゴロウイワシ	
マゴチ	

スズキ	
クロダイ	
コトヒキ	
マハゼ	
ツマグロスジハゼ	
アゴハゼ	
アカオビシマハゼ	
ギマ	

干潟調査のレポート③

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」(人工干潟)	8月8日

東京湾カニ生息一斉調査の結果

**調査情報**

団体名	関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 横浜市神奈川区橋本町2-1-4	
位置座標 (可能であれば) ※スマートフォン・タブレット端末 等の地図アプリで取得してくださ い。	緯度	35.4716
	経度	139.64
実施年月日	令和7年8月8日	
参加人数(人)	26人(小学生12名 中学生1名 未就学児2名 保護者11名)	

**調査結果**

種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ	10	人工干潟上で数体見つかる。
ケフサイソガニ	200 以上	転石回りでよく見つかる。(タカノケフサイソガニの可能性もあり)
タカノケフサイソガニ		
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ		
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
イシガニ	10	潮だまりや転石付近で見つかる。稚ガニも数体確認。
コメツキガニ		
チゴガニ		
オサガニ		
ヤマトオサガニ		
種類不明のカニ		
ガザミ(ワタリガニ)	5	潮だまりや転石付近で見つかる。稚ガニも数体確認。
アミノコギリガザミ	1	人工干潟の端部で確認。(1.4kg)
スナガニ	10	人工干潟上段の砂質の堆積範囲で見つかる。(巣穴あり)

**備考**

小学生を対象とした生物観察会「横浜の海はいま?」において、人工干潟のカニについても調査したもの。
--

干潟調査の結果

団体名	横浜港湾空港技術調査事務所 生物観察会 「横浜の海はいま？」	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 221-0053 横浜市神奈川区橋本町2-1-4	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35.4716
	経度	139.6400
実施年月日	令和7年8月8日	
参加人数(人)	26名 小学生12名 中学生1名 未就学児2名 保護者11名	

発見した生物の種名※	特記事項など
ミドリイガイ	岩に付着し、上段・中段でよく見つかる。
タテジマフジツボ	階段や護岸、カキ殻によく付着している。
イワフジツボ	階段や護岸によく付着している。
マガキ	護岸や転石でよく見つかる。殻に付着している生物も多かった。
アカニシ	岩に付着し、よく見つかる。
イボニシ	転石の回りや護岸背後の隙間でよく見つかる。
アラムシロ	転石の回りや護岸背後の隙間でよく見つかる。
タテジマイソギンチャク	岩に付着し、よく見つかる。
マハゼ	成魚、稚魚ともに潮だまりで見つかる。
シマハゼ類	礫のまわりでよく見つかる。
チチブ	礫の周りの砂泥底でよく見つかる。
カタユレイボヤ	中段の壁面で見つかる。
ボラ	広い水面や岸の近くで見つかる。
アサリ	人工干潟の上段、中段で稚貝を確認。
マテガイ	人工干潟の上段、中段で稚貝を確認。
ゴカイ	人工干潟の土中でよく見つかる。
イシガニ	潮だまりや転石付近で見つかる。稚ガニも数体確認。
ガザミ(ワタリガニ)	潮だまりや転石付近で見つかる。稚ガニも数体確認。
ケフサイソガニ	転石回りでよく見つかる。
アミメノコギリガザミ	人工干潟の端部で1匹のみ確認(1.4kg)
コブヨコバサミ	人工干潟上の転石周辺で見つかる。
マメコブシガニ	人工干潟上で数体見つかる。
スナガニ	人工干潟上段の砂質の堆積範囲で約10体を確認。

【調査結果概要】

【調査場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)



【対象生物】 外来生物や付着生物を中心に人工干潟に生息する生物を調査・観察

【調査範囲】

人工干潟の上段・中段、人工磯場周辺

【調査結果概要】

ミドリイガイ (護岸壁面に付着)、タテジマフジツボ、マガキなどの付着生物を確認

人工干潟の転石回りではカニ・稚ガニを確認

干潟の潮だまりでは稚魚クラスを確認

【調査の様子】



調査の全景



人工干潟(上段)での調査状況



屋内での観察状況

干潟調査のレポート④

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」(人工干潟)	7月24日

干潟調査の結果

団体名	横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 221-0053 横浜市神奈川区橋本町2-1-4	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35.4716
	経度	139.6400
実施年月日	令和7年7月24日	
参加人数(人)	24名 (小学生11名 中学生1名 保護者8名 近隣小学校教諭4名)	

発見した生物の種名※	特記事項など
アサリ	干潟の砂泥中で見つかる。
マテガイ	干潟の砂泥中で稚貝が多く見つかる。
シオフキ	干潟の砂泥中で稚貝が見つかる。
サルボウ	干潟の砂泥中で見つかる。
アカニシ	干潟面や岩に付着し、よく見つかる。
イボニシ	護岸沿いの隙間でよく見つかる。
アラムシロ	干潟や護岸沿いの隙間でよく見つかる。
ミドリイガイ	岩に付着し、上段・中段でよく見つかる。
マガキ	護岸や転石でよく見つかる。殻に付着している生物も多かった。
ミズヒキゴカイ	干潟の砂泥中で見つかる。
ゴカイ	干潟の砂泥中で見つかる。
シマメノウフネガイ	カキ殻や巻貝の上で見つかる。
タテジマフジツボ	階段や護岸、カキ殻によく付着している。
コブヨコバサミ	干潟上の転石周辺で見つかる。
タテジマイソギンチャク	岩に付着し、よく見つかる。
マハゼ	成魚、稚魚ともに潮だまりで見つかる。
シマハゼ類	潮だまりや礫のまわりでよく見つかる。
チチブ	潮だまりや礫の周りでよく見つかる。
ボラ	広い水面や、潮だまり、岸の近くで多く見つかる。
クロダイ	広い水面や岸の近くで多く見つかる。

メジナ	潮だまりや護岸沿いで見つかる。
ヨウジウオ	潮だまりで見つかる。
ギマ	潮だまりで見つかる。
アミメハギ	潮だまりで見つかる。
イシガニ	干潟の砂泥上で見つかる。

【調査結果概要】

【調査場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)



【対象生物】アサリ

【調査範囲】

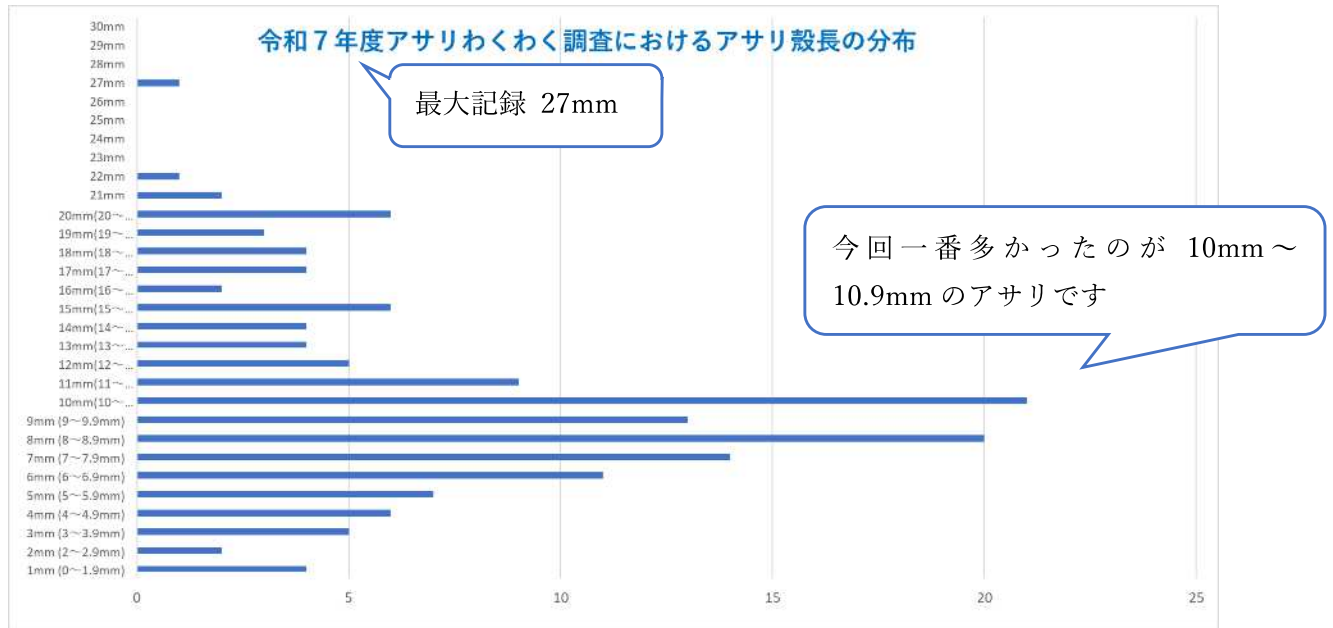
1 6 箇所 (上段 5 箇所、中段 11 箇所) で合計 154 個、殻長は 1~27mm でした。

(1 箇所あたり 25 cm × 25 cm × 10 cm)



### 【調査結果概要】

調査地点 16 箇所（1 箇所あたり 25 cm×25 cm×10 cm）で合計 154 個、殻長は 1～27mm でした。



### 【調査の様子】

アサリの採取状況



採取したアサリの計測

